

パンゴムシが やってきた!

くすのきしげのり 作
ゆーち みえこ 絵

Alice n



「ひかり、めを つぶって、りょうてを だして!」

「はい。めを あけて」

「あーっ! ダンゴムシだ!!」

「としょかんの うらにわで

ダンゴムシの くにを みつけたの。

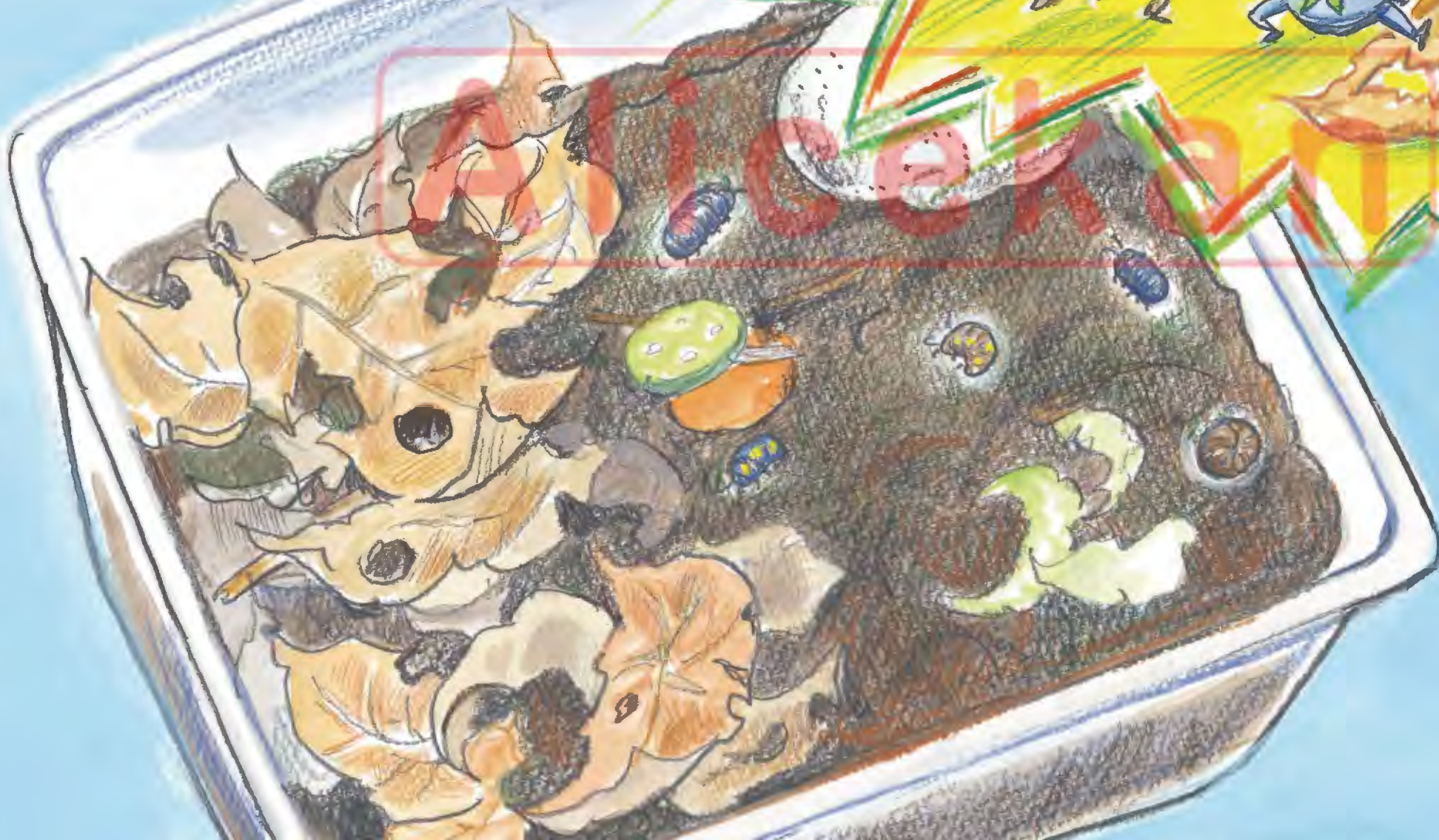
いってみる？」

「いきたい!」

Alice kan

それから、ぼくと おねえちゃんは、おおいそぎで
いえに かえて しいくケースを もってきた。
「ひかり、ダンゴムシを ケースに 入れて」
ぼくは、ダンゴムシを 4ひき そっと 入れた。
「あっ、これ みて！」
おねえちゃんが、とびきり おおきい
ダンゴムシを みつけて、5ひきになった。

ダンゴムシせんたい まるまるんジャー



「おねえちゃん、5ひきだから……
『ダンゴムシ せんたい』だ！」
「そうか、それなら、
『ダンゴムシせんたい
まるまるんジャー』ね」
「いい、それ すごくいい！」

そのよる。

おねえちゃんが こうぶつの キュウリを
いれようとしたときだ。

「ひかり、たいへん！ ダンゴムシ！ ころが
うごかない！！」



「どうしたんだろう、どうしたんだろう……。」

きょう、ぼくが、がっこうに つれていったから、かな……」

「えーっ」

「でも、みんなの てのひらに のせてあげたときは、
げんきだったんだ」

「そんなこと するからよ！」



「おとうさん、
ダンゴムシ1こが うごかないの」
「あっ、おねえちゃん、
すこし うごいたかも」
「ほんと？」

「ううん、うごいてない。
いや、もう うごかない」
おとうさんが しずかに いった。

「……しんじやったの？」
「……うん」

AliEka

